

令和 6 年度

2025.122

大山保育園年中児保護者会

～保護者の皆様からの質問に答えて～

中根橋小学校 校長



本日は、昨年度に続き4歳児の保護者会にお呼びいただきありがとうございます。
3回目となりました。

今年は、例年と比べて保護者の皆様の質問が変わってきていると感じています。信頼される学校となるため、きちんと説明をしていかなくてはと思います。短い時間ですがよろしくお願いします。

1 学校生活について

Q: 入学式までに勉強面、生活面でどこまでできるようになっていたらよいのか、先取り学習は必要で、読み書きはどのレベルまで身につけておくべきでしょうか。

A: 基本的には自分のことが自分でできることが望ましいです。例えば衣服の脱ぎ着、食事、持ち物の管理等です。

先取り学習は必要ありません。先に学習をしていると学校での授業に興味がなくなったり、話を聞く必要も感じなくなったりする子もいます。

一番大切なことは、学校に慣れることです。その次はクラスの友達とかかわれることです。大人の社会で必要なものはコミュニケーション力だと言われています。知識ではなく、人の話が聞ける、相手の気持ちを想像できる、そして、協力し合って活動ができることです。

人は誰かの役に立った時に喜びを感じるものです。幸せとは、人とのかかわりの中

で生まれてくることが多いです。是非そのことを考えて、親子の時間や保育園で過ごす時間を大切にしたいです。

読み書きは自分の名前が読めて書ければ十分です。小学校の6年間の学びの中で力を付けさせていきます。

Q: 小学校の1日の流れを知りたいです。

A: 登校、朝のしたく、朝の会、1・2時間目の授業、20分程度の休み時間、3・4時間目の授業、給食、昼休み、掃除、5時間目の授業、帰りの会、保護者の皆様の小学校時代と大きく変わっているようなことはありません。

Q: 周りの子供たちと協調性をもって学校生活を送ることができるのか心配です。

A: その力は保育園での生活の中で自然と身に付けていると思います。協調性は遊びを通して育ちます。その時間を大切にしたいです。

Q: 保育園と小学校の対応の差について、保護者が認識しておくべきことはどんなことですか。

A: 基本的には学校は教育の場ということです。子供とのかかわりは教育の視点で考えます。教育は子供が社会で生きていくための力を付けさせることです。子供を中心に考え、活動が行われるのが学校です。

私見ですが、保育サービスという言葉があるように、保護者への保育支援の色合いが強いのが保育園で、どちらかというと保護者の立場で考えているのが保育園だと思います。

Q: 1年生は何名か、また、何クラスありますか。

A: 小学校の1クラスの上限は35人です。それを超えると新しいクラスが増えます。

学校によって1年生のひとクラスの人数(20人~35人)で、クラス数は学校によって違います。

Q: 小学校の先生と保護者の距離感、保育園とは違い毎日顔を合わせられないためどのようなコミュニケーションをとっていただければよいのかわかりません。先生方が忙しく、迷惑ではないかと思ってしまいます。

A: 連絡ツールは、まず連絡帳です。細かいことについては電話でも結構です。朝は時間が取れないので授業が終わった3時頃にお電話をください。事前に要件と時間を連絡帳でお知らせいただくと助かります。

毎日、担任と保護者が顔を合わせることはできませんが、行事や保護者会・授業参観に足を運び、機会があれば担任にお声掛けをしてください。何かご心配なことやお困りごとがあったら、担任はもちろん、管理職や養護教諭にご相談ください。

Q: 給食のサンプル写真を見せていただきたいです。

A: 本校ではホームページで毎日給食の写真を掲載しています。

Q: 和式トイレの練習は必要ですか。

A: 学校には和式トイレはありません。しかし校外学習ででかけた施設で和式のトイレがあるところもあります。和式も使えると便利だという程度で、無理に練習する必要はありません。

Q: GPSは持たせてよいですか。

A: 基本的には学習で必要でないものは持ってくることはできません。例えば携帯電話やお金、おもちゃなどです。GPSについては、入学する学校にご相談ください。

2 授業について

Q: 1年生ではまずどのような学習が行われますか。(プログラミングや英語等)

A: 1年生の学習内容は基本的なことが多く、また量も少ないです。それを1年間かけてじっくりと授業が進んでいきます。

ひらがなや数を数えるなど基本的なところをしっかりと身に付けさせるのが1年生の授業です。しかし、学校の授業で学習が十分に身に付くことが難しい子もいます。ですから、1日10分でも親子で家庭学習に取り組むことが有効です。ノートを見れば今日の学習内容や理解の程度がわかります。それを見ながら、学習したことをお子さんに話をさせるとよいです。そのため、低学年にとって、タブレットよりは教科書やノートを見たほうが、お子さんの学習の足跡が探しやすいです。

1年生でもプログラミングロボットを使って学習や年間数時間ですけれどもALTと担任による授業もあります。本校ではパナソニック教育財団の研究助成を受けて、プログラミング教材を整備しました。全学年でプログラミングの授業を計画的に実施しています。

Q:授業の進度はできない子に合わせるのか、中間層に合わせるのですか。

Q: 授業についていけない子の対策はありますか。

A: 今の日本の教育は個別最適な学習を目指しています。AIドリル、自由進度学習など一人一人の能力や関心に応じた学習形態を模索しているところです。

お子さんによって能力や興味・関心は違います。どこをターゲットにして授業を展開するかは、ケースバイケースです。あまり優しい内容ばかりだと子供たちは飽きてしまいます。また難しいことばかりだとやる気をなくしてしまいます。その辺を鑑みながら担任は授業を進め、授業中に個別に指導もしています。算数については、低学年からの少人数指導、講師の先生が入っての複数教員での指導も実施しています。

Q: じっと座って勉強するために、今からできる練習方法はありますか。

A: 話が分かりにくかったり、興味のない話であったりすると大人は寝てしまいます。子供なら、先生の話す言葉がわからないと授業がつまらなさと感じます。そうすると手遊びが始まって授業に集中しなくなります。

逆に知っている言葉が多いと学習がスムーズに進みます。そのために親子で会話をしたり、絵本を読み聞かせをしたりして、たくさんの言葉を身に付けることが大切です。

Q:タブレットはどの程度使用し、またネットリテラシー等についての指導はありますか。

A:タブレットの使用頻度は学校や学年によって差があります。タブレットを使用した

方が効果的な場合は使いますが、タブレットばかりで授業が進んでいくということはありません。

また、学年の発達段階に応じてネットリテラシーの指導を行っています。中学年以上はSNSなどスマホにまつわる子供どうしのトラブル、低学年はゲームから離れられないとの相談が寄せられます。その都度、学校でも指導を行っています。

家庭では親子でしっかりルールを決めて、スマホやゲームを与えることが大切です。また、本校では9月に「大人の学級会」として、保護者会で親同士がネットやゲームなどの情報交換をしました。

3 安心・安全について

Q: いじめや不登校に対して学校側が問題解決に向けて、どのようなアプローチをしていますか。

A:いじめについては、学校は何を差し置いてでも真っ先に対応します。管理職・生活指導主任・学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー等でチームを組織して対応します。

解決はいじめを受けた子供や保護者の心に寄り添って進めていきます。まず保護者や子供の話をよく聞きます。場合によっては保護者に学校においでいただくこともあります。

いじめの事実をつかむためにアンケートや当事者以外の子供への聞き取りも行います。そして、相手側の保護者に連絡をしたり、いじめにかかわった子供を指導したりと複数の教員で対応します。

さらに校長が全校朝会で話したり、担任が学級で指導をしたりします。また、学年集会等を開いて人を大切にすることは、自分を大切にすることにもなると教えます。

どんな言動がいじめなのか、いじめをしない、いじめは見逃さないことを道徳の授業や日々の学級活動の中で繰り返し指導をしています。

不登校については、本校では校内フリースクールとなるようなサポートルームを設けています。集団が苦手な子供たちにきめ細かな支援をしています。教室での学びを負担に感じている場合、管理職は保護者との面談を通して、本人や保護者の意向を確かめます。保護者と一緒に登校し、2時間ほどサポートルームで過ごし、教室に行く子もいます。このように集団が苦手なお子さんがサポートルームで過ごしたり、教室で学んだりができるようにしています。

Q: 危機管理能力を育てる教育を教えてください。

A: 学校ではセーフティ教室を行っています。また、不審者の情報があつた際には折々に学級での指導も行っています。

何より大切なのは家庭での教育です。ということが危険なことを教えること、危ないところに行かないとか、危ないことに会ったらどうするのかを常々話してあげることが大事です。

Q: 誘拐や性犯罪について小学校で行われている対策と保護者が気をつけるべきことはどんなことですか。

A: 「いかのおすし」という言葉を使って指導しています。

い：行かない、

の：乗らない、

お：大声で叫ぶ、

す：すぐに逃げる、

し：（家の人や先生に）知らせる。

ご家庭では、いつ帰るのか、どこで遊ぶのか、誰と遊ぶのかを必ず伝えて外出するようにさせてください。

また、性犯罪については、水着で隠れる部分はプライベートゾーンで、絶対に人に触らせない、また、友達でも触らせないことを小学校に入る前には教える必要があると思います。

4 学童等について

Q: 下校時に家に保護者がいない場合、どのようにやりくりを行っていますか。

A: 保護者が就労等で家庭にいない場合には学童保育に行かせています。学童の時間が終わっても保護者が不在の場合には、ファミリー・サポートなど、それぞれの家庭で工夫されています。先輩のお母さま方に聞かれるとよいと思います。

Q: 学童には人数制限なく入ることができますか、宿題まで学童でやって帰れますか。

A: 板橋区の学童クラブはあいキッズと呼ばれ、条件を満たしていれば希望するお子さんは制限なく入れると思います。それは板橋の子育て支援が充実しているひとつです。

学童で宿題をやっているかどうかは直接尋ねてください。各学童クラブでは学習タイムがありますので、場合によってはその時間に宿題をすることも可能かも知れません。

宿題は家庭学習の習慣を付ける側面からも出されています。家でもお子さんの学習状況を把握するために宿題を見てあげることも大切です。

Q: PTA と保護者参加の義務はどのように
なっていますか。

A: PTA 加入や活動の義務はありません。
PTA は子供たちのためにある組織です。
子供たちにより教育を行うのは保護者や地
域の協力は欠かせません。アメリカの学校
は日本以上の保護者の学校へのかかわりが
多いと聞いています。保護者も学校教育の
当事者としての考えが浸透しているそうで
す。

本校では、PTA 活動以外に家庭科や校
外学習の付き添いなど折々にお手伝いを頂
いています。担任も助かりますし、何より
子供たちはより安全に学習活動ができま
す。保護者の皆様が PTA 活動やボランテ
ィアをご自身の得意分野で担っていただ
けると助かります。